

傳築田舎原氏

三十八

特別

^13

4274

38



子  
の  
し  
り  
や  
あ  
ら  
ま  
り

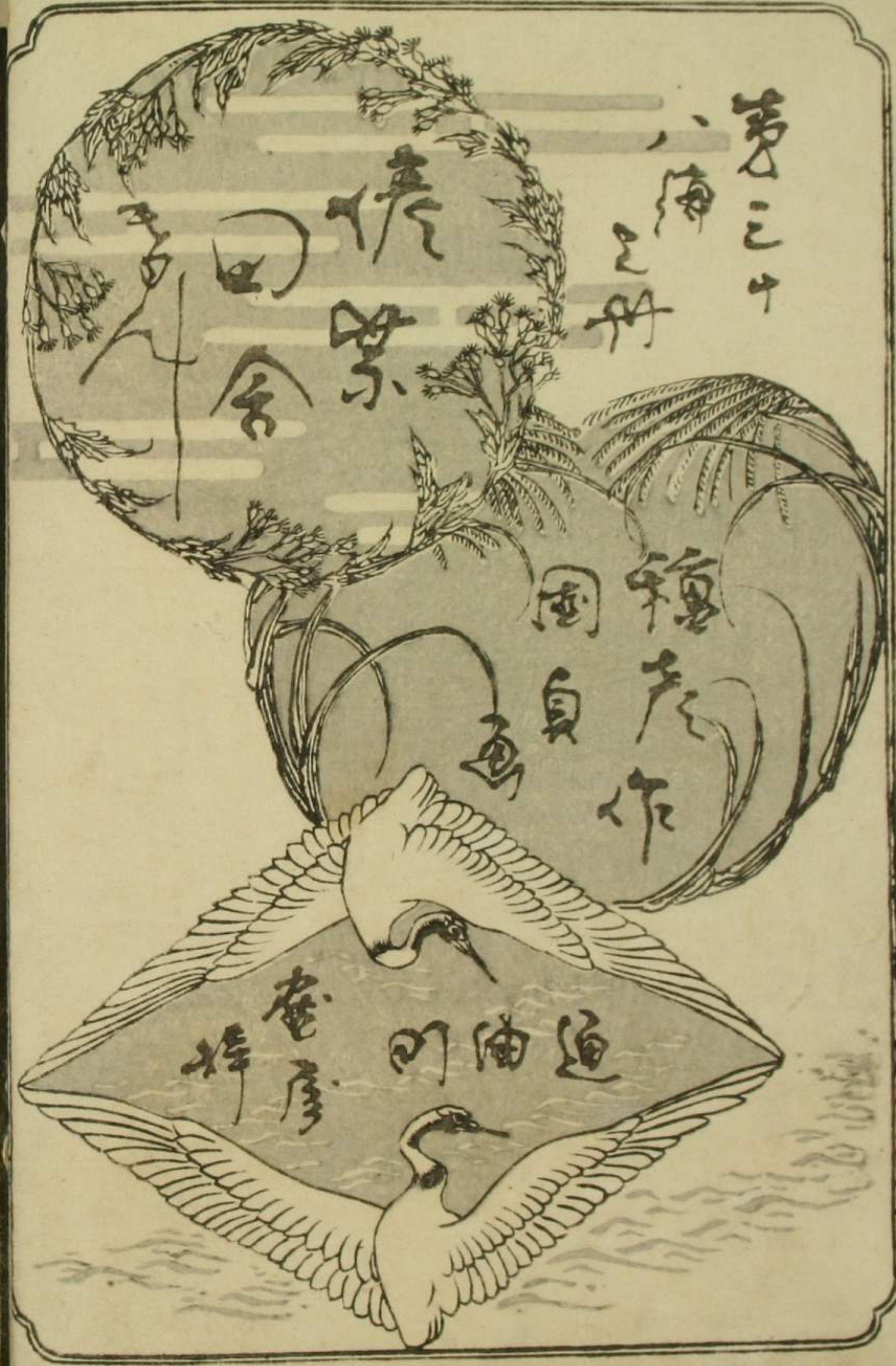


懐  
筆

三十八編上

八海  
之舟

種彦作  
國貞  
画



延喜四年撰 至來集 定貞の句ふ「名中も似せ月を毛ぬれ九行燈」といふ  
 詠をやり一各中も似せと其形を難せりなり又近く安永九年  
 の作 隣壁夜話の序に「女郎の寢と玉子の四角へ巻物と歌ひふ行燈  
 丸く四角る五徳が出来重宝といひ」云と見え 延喜より其乃百余年  
 暗合の同論あり。今の座敷の行燈丸い物のやうな心え箱火鉢でつらふ五  
 徳の角る物と定まらば専ら流行れ目よ馴し故也。此草紙小光氏が  
 大將長曲と海老の尾のやうな割りの亀戸の案下初めの程に異なる髪と  
 あられまで思ひつゝ繪する羽子板押繪の類開帳庭の納め物又吉原の  
 軒燈籠の扇のりとも煎餅形悉此次女を写さふ目馴怪き髪風の  
 ともいふ思へ前よあけは二箇器の論の止一是同画の流行せし功  
 するべしそれいふれて自然拙作も源氏といふ名中も似せとあ誹アもうす  
 りぎのく末まで續んくと角る五徳と似せ不假我身勝多と如斯

柳亭種彦誌









Vertical Japanese text in the upper right corner of the left page, likely a title or introductory text.

Horizontal Japanese text located between the woman and the man, possibly a dialogue line.

Vertical Japanese text in the lower left corner of the left page, likely a continuation of the text.

Vertical Japanese text in the lower right corner of the left page, likely a continuation of the text.



Vertical Japanese text in the upper right corner of the right page, likely a title or introductory text.

Vertical Japanese text in the upper left corner of the right page, likely a continuation of the text.

Vertical Japanese text in the middle of the right page, likely a continuation of the text.

Vertical Japanese text in the lower right corner of the right page, likely a continuation of the text.











あつて人の  
おちめを  
見るさまを  
おちめが  
おのれが  
これ  
おま  
おま



あつて人の  
おちめを  
見るさまを  
おちめが  
おのれが  
これ  
おま  
おま

あつて人の  
おちめを  
見るさまを  
おちめが  
おのれが  
これ  
おま  
おま



あつて人の  
おちめを  
見るさまを  
おちめが  
おのれが  
これ  
おま  
おま

あつて人の  
おちめを  
見るさまを  
おちめが  
おのれが  
これ  
おま  
おま





源氏廿八編

十一



ひらたけのうらみはあつた  
それゆゑ下よあつたをあまふを  
まじりあつたをこのうらみ  
あつたをこのうらみ  
あつたをこのうらみ  
あつたをこのうらみ

あつたをこのうらみ  
あつたをこのうらみ  
あつたをこのうらみ  
あつたをこのうらみ

あつたをこのうらみ  
あつたをこのうらみ  
あつたをこのうらみ  
あつたをこのうらみ  
あつたをこのうらみ  
あつたをこのうらみ  
あつたをこのうらみ  
あつたをこのうらみ



あつたをこのうらみ  
あつたをこのうらみ  
あつたをこのうらみ  
あつたをこのうらみ

あつたをこのうらみ  
あつたをこのうらみ  
あつたをこのうらみ  
あつたをこのうらみ

あつたをこのうらみ  
あつたをこのうらみ  
あつたをこのうらみ  
あつたをこのうらみ  
あつたをこのうらみ  
あつたをこのうらみ  
あつたをこのうらみ  
あつたをこのうらみ



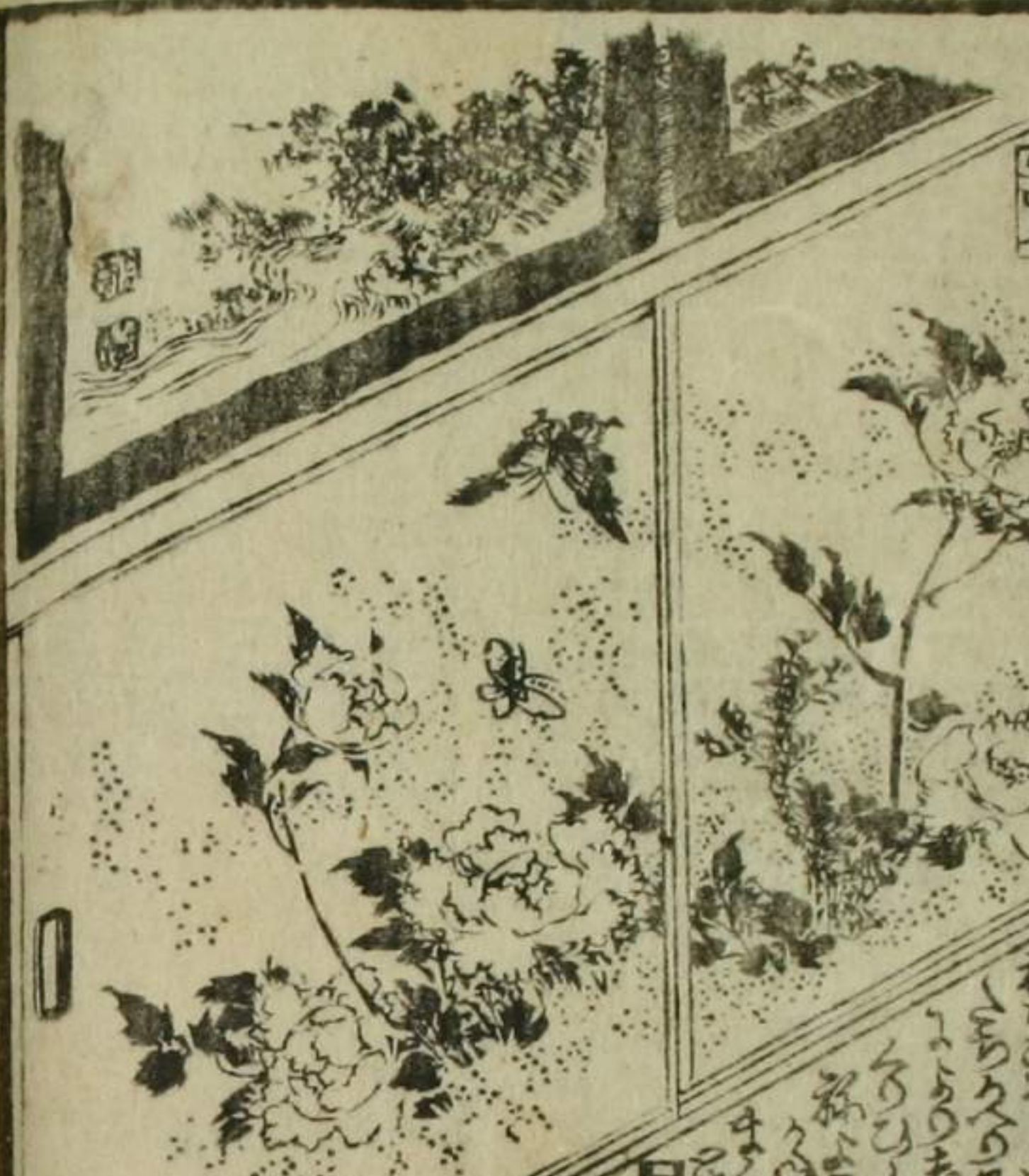








ついでにまかやとてかたしついで  
さうのそけいかたの助うら  
なまきまのうきくまを  
そのかもしきまのそとあ  
あつちのうきくまを  
まてのうきくまを  
たのうきくまを  
あつちのうきくまを  
まてのうきくまを  
たのうきくまを



上つてのうきくまを  
まてのうきくまを  
あつちのうきくまを  
たのうきくまを  
まてのうきくまを  
あつちのうきくまを  
たのうきくまを  
まてのうきくまを  
あつちのうきくまを  
たのうきくまを



まてのうきくまを  
あつちのうきくまを  
たのうきくまを  
まてのうきくまを  
あつちのうきくまを  
たのうきくまを  
まてのうきくまを  
あつちのうきくまを  
たのうきくまを  
まてのうきくまを

まてのうきくまを  
あつちのうきくまを  
たのうきくまを  
まてのうきくまを  
あつちのうきくまを  
たのうきくまを  
まてのうきくまを  
あつちのうきくまを  
たのうきくまを  
まてのうきくまを



まてのうきくまを  
あつちのうきくまを  
たのうきくまを  
まてのうきくまを  
あつちのうきくまを  
たのうきくまを  
まてのうきくまを  
あつちのうきくまを  
たのうきくまを  
まてのうきくまを







國貞画種彦作

光氏... 玉... 月... 柳亭... 仙雀堂... 五雲亭... 鶴屋... 問屋... 黒油美香... 美艶仙女香... 黒油美香



十四箇年繪草紙  
至天保十二年巳丑  
自文政十二年巳丑  
至天保十三年壬寅  
柳亭種彦作  
歌川國貞画  
一色三京泥廉の女  
浄書  
上冊柳枝  
下冊金川  
巻衣  
下冊金川  
三十九編の  
巻の  
り

天保三年壬寅新春新彫

倭紫田舎源氏

柳亭種彦作  
歌川國貞画

三十八編 柳亭去夏より秋うけて病氣のまゝりけし新斬り快氣仕  
ひる草稿出来次第右五帳ハ巻月遠用板仕の 仙雀堂敬白  
山東京山作  
初編四冊二編四冊  
金澤万八笑増談  
五雲亭貞秀画

美艶仙女香  
黒油美香  
製所 坂本氏  
取次



書物錦繪  
團扇地紙

問屋 鶴屋喜右衛門  
江戸通油町



